

ポローニャ大学 協定留学（交換留学）月例報告書（2022年12月）

文化政策学部 国際文化学科4年 外川内瑞季

今月は、イタリアのクリスマスと、オーストリア・ウィーンへの旅行についてお伝えする。

【イタリアのクリスマス：Natale in Italia】

イタリアのクリスマスは期間が長く、11月末頃から徐々にクリスマスモードが漂い、年が明けた1月6日の公現祭まで、約一ヶ月にわたってクリスマスをお祝いする。25日は家族とともに家で過ごすことが多いため、日本のお正月に近い日とも言われている。確かに、日本で「明けましておめでとう」の挨拶をするように、25日にイタリア人の友達の多くが「Buon Natale!」とメッセージを送ってくれたことから、クリスマスがイタリアにとって重要な日と考えられていることを感じた。

イタリアのクリスマスと言えば、Mercatino di Natale、クリスマスマーケット。ポローニャでもいくつかのクリスマスマーケットが開かれていた。たくさんの美味しい食べ物をはじめ、石鹸やツリー用の飾り、防寒具など、さまざまなものが販売されていた。12月はとても寒い日が多かったが、ホットワインを飲んで温まりながら、キラキラしたマーケットを見ているだけでも、とても楽しかった。

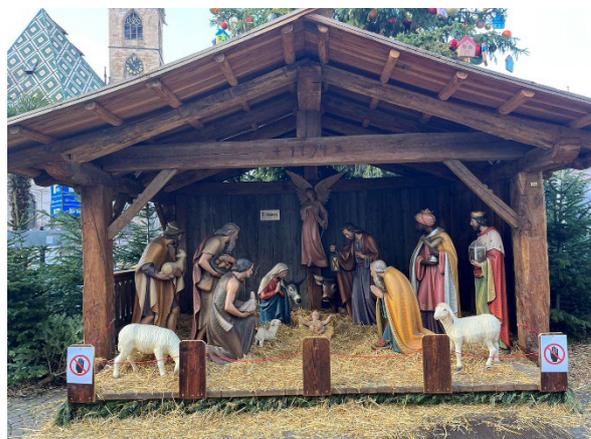


街の様子は、マッジョーレ広場のクリスマスツリーをはじめ、イルミネーションで光り輝いていた。25日と26日は、スーパーをはじめほとんどの店が閉まっていたが、ジェラート屋が営業していたこと、中心地は意外にも、いつものように多くの人で賑わっていたことに驚いた。

また、教会で行われていたミサにも行った。たくさんの方が集まり、説教やパイプオルガンの伴奏に合わせた聖歌を生で見聞きした。当たり前のことではあるが、教会内に入るときには、ほぼ全ての方が十字を切り、なかには膝をついて熱心に祈りを捧げる人もいた。私にとっては初めて目にする光景ばかりだったため印象に残った。

さらに、北イタリアのボルツァーノという街に行ってきた。ここでは、イタリア最大級のクリスマスマーケットが開かれることで有名である。手作りのカバンやアクセサリーを販売する店が多く、お店の人と会話をしながら買い物を楽しんだ。

ボルツァーノは、オーストリアの近くに位置しており、看板やメニューなど、いたるところにイタリア語とドイツ語が共に表記されていた。街並みやドゥオーモの雰囲気も、今までイタリアで見てきたものとは少し異なる印象を受けた。また、自然もとても豊かな街だった。



↑「プレゼーペ」という、キリスト誕生の瞬間を人形や模型で表したものです。こちらはボルツァーノのクリスマスマーケットにあったものですが、ポローニャでも街中や教会など、いたるところでプレゼーペを見かけました。

【ウィーンへの旅行：Il viaggio indimenticabile a Vienna!】

12月のはじめに、オーストリアのウィーンへ行った。

9月の報告書に、過去にヨーロッパを訪れたことがある、と書いたが、そのときに訪れた場所がウィーンであった。高校生の頃、初めての海外での体験や感動が、いまの自分自身にも大きく影響しているため、留学中に必ず訪れたい場所の一つだった。

思い出の地を6年ぶりに再訪できたことは、とても感慨深かった。また、イタリア以外の国をひとりで旅することは初めてであり、予想外の出来事も多く発生した。すべて含めて忘れられない体験となり、自信もついた。

ヨーロッパのほとんどが陸続きであり、入国審査や両替、スマートフォンの細かい設定…などをする必要がない。日本で例えると、まるで県外に行くように気軽に国境を超えることができる。これを体感し、改めて、ヨーロッパ、EUの環境や制度に驚いた。また、同じヨーロッパでも、イタリアとオーストリアで文化の異なる点を多く発見できたことも良かった。できる限り、他にもたくさんの国を訪れたい。

